

東南アジア～米国間のトランジットの実態（2014年）

●概要

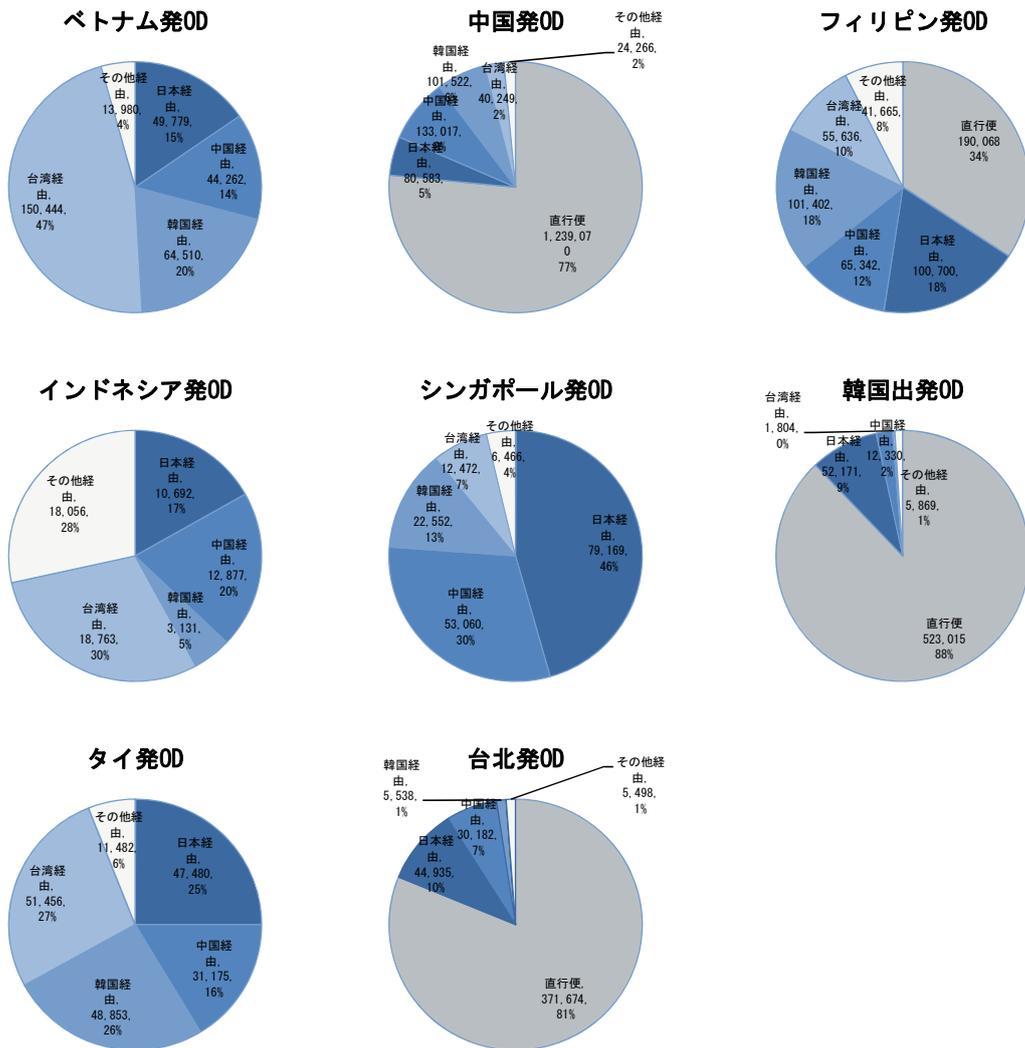
中国・韓国・台北およびASEAN諸国と北米の二大陸間について旅客の動向を把握し、またアジア⇒アメリカ間の実際トランジットについて国内と周辺国の空港で利用率を比較するため、統計を整理して取りまとめた。

●集計条件

- ・出発地は14カ国（中国、香港、韓国、台湾、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）の全ての地域及び空港とし、到着地はアメリカ合衆国の、ハワイ州を除いた残り全ての地域及び空港とした。
- ・旅客数が10万人を超える出発地と到着地をそれぞれ抽出し、その地域間で、アジアを一度経由してアメリカに向かう旅客数が1万人を超えるODを再度抽出し、出発国別に集計した。また、中国と香港はまとめて集計した。
- ・経由空港については、日本（成田、羽田、関西）、中国（北京、上海浦東、香港）、韓国（仁川）、台湾（台北）、その他とした。

●集計結果

直行便または経由便の旅客数と、ODに対する経由地ごとの旅客の割合について、円グラフと表で以下のようにまとめた。トランジットの傾向としては、全体的に見ると日本経由が比較的多いが、東南アジア発では韓国、台湾でのトランジット率が高いケースが散見される。また、最も数が多い中国発の旅客は中国国内および韓国でのトランジット率が高い。



出発地	OD全体	トランジット全体	トランジット割合	直行便	日本（成田、羽田、関西）経由	中国（上海、北京、香港）経由	韓国（仁川）経由	台湾（台北）経由	その他経由						
ベトナム	323,067	322,975	100%	92	0%	49,779	15%	44,262	14%	64,510	20%	150,444	47%	13,980	4%
中国	1,618,707	379,637	23%	1,239,070	77%	80,583	5%	133,017	8%	101,522	6%	40,249	2%	24,266	1%
フィリピン	554,813	364,745	66%	190,068	34%	100,700	18%	65,342	12%	101,402	18%	55,636	10%	41,665	8%
インドネシア	63,520	63,519	100%	1	0%	10,692	17%	12,877	20%	3,131	5%	18,763	30%	18,056	28%
シンガポール	173,802	173,719	100%	83	0%	79,169	46%	53,060	31%	22,552	13%	12,472	7%	6,466	4%
韓国	595,189	72,174	12%	523,015	88%	52,171	9%	12,330	2%	0	0%	1,804	0%	5,869	1%
タイ	190,599	190,446	100%	153	0%	47,480	25%	31,175	16%	48,853	26%	51,456	27%	11,482	6%
台北	457,827	86,153	19%	371,674	81%	44,935	10%	30,182	7%	5,538	1%	0	0%	5,498	1%
合計	3,977,524	1,653,368	42%	2,324,156	58%	465,509	12%	382,245	10%	347,508	9%	330,824	8%	127,282	3%

（出典）Sabre ADIにより国土技術政策総合研究所作成